

様式 4

令和 3 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子南高等学校

校長 山崎 和正

評 価 日	令和 4 年 2 月 2 5 日 (金)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○基礎学力の向上については、I C T活用によりこれまで以上に成果が上がると考える。教員研修を積極的に行い GoogleClassroom が日常的に利用されているところはよい。このようなクラウドツールはD Xの流れも含め、社会で活用することの重要度も上がっているのですさらに利用を進めていくことが重要である。 ○キャリア支援の充実や地域社会への貢献の点において、コロナ禍で取り組みが難しい中、よく取り組んでいる。 ○的確な情報発信については、マニュアル化などによって計画的・効果的に行われている。 (2) 説明・公表について ○特に意見なし 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ○中心市街地活性化事業（マチナカクリスタル）、皆生温泉応援プロジェクトなど生徒が主体的に取り組む事業は、継続して行ってもらいたい。生徒の自信にもなり効果が大きい。 3. 取組改善のための提言 ○地域社会への貢献について、可能性があれば、同窓会も巻き込んでいくことも考えてはどうか。 ○的確な情報発信について、若者に合わせて Instagram などの利用も検討してはどうか。 ○授業参観等で、生徒がいい表情で主体的に取り組んでいる様子が見られる。その姿をおそらく中学生はあまり知らない。中学生にもっと伝われば、米子南高校を希望する中学生は増えると思う。		○来年度新入生より 1 人 1 台端末を持って入学してくる。年度内に計画的に教職員研修を実施しており、関連したアプリ研修も引き続き実施していく。 ○コロナ禍でのキャリア教育の構築として、オンラインによる企業との研修など現状に合わせた形も考えて進めていきたい。 ○地域の状況、変化を的確に捉え、それを地域教材として、ビジネスプラン等に結び付けていく学習の仕掛けを継続して行っていく。 ○同窓会の地域でのネットワークを活用し、課題研究等に繋げていきたい。 ○専門高校の特色ある取組を新たな情報発信の形で伝えていくとともに、今後も中学生にアピールする仕掛けを考えたい。

※第 2 回学校関係者評価委員会は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、集合会議でなく書面での意見、評価等を集約した形式で実施。評価日は、意見等提出日に設定。